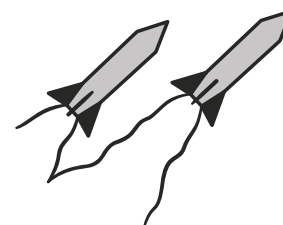


💣 テロ・武力攻撃



テロ・武力攻撃の危険

政治・行政・経済が集中する東京は、テロや武力攻撃の標的にされる可能性も。平成16（2004）年に国民の生命・身体・財産を保護することなどを目的として「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（平成16年法律第112号。以下、「国民保護法」）」を施行。万一の事態には、この「国民保護法」に基づき、各区市町村の防災無線で注意を呼びかけます。SNSやテレビ・ラジオなどの情報にも耳を傾け、指示に従いましょう。



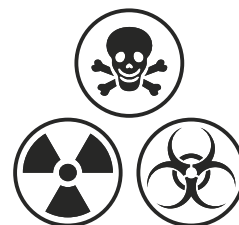
弾道ミサイルによる攻撃

攻撃目標の特定が極めて困難で、短時間での落下が予想されます。



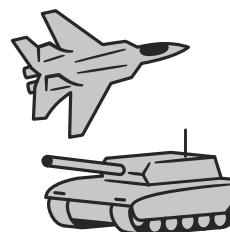
ゲリラや特殊部隊による攻撃

突発的に被害が発生することが考えられます。攻撃目標が原子力発電所等の場合は大きな被害が生じるおそれがあります。



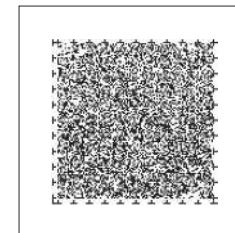
化学剤などによる攻撃

攻撃化学剤、生物剤、核物質を用いられた場合、人体に影響があり、特別な対応が必要になってきます。



着上陸侵攻・航空攻撃

着上陸侵攻は沿岸部が侵攻目標になりやすく、航空攻撃は都市部の主要な施設が攻撃目標になることも想定されます。



テロ・武力攻撃から身を守るために

テロや武力攻撃のおそれがあるときは、テレビ、ラジオ、インターネットのニュースなどに注意して、情報の入手に努めましょう。



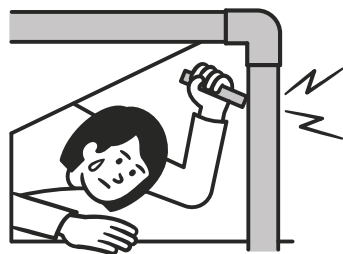
爆発が起こったら

爆発が起こったら、すぐに姿勢を低くして、頑丈なテーブル等の下に身を隠します。爆発は複数回続く場合もあるので、安全な場所へ避難しましょう。



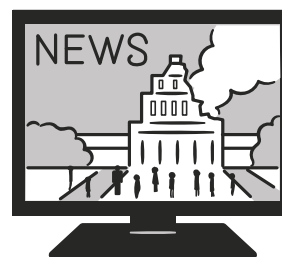
火災が発生したら

テロや武力攻撃で火災が発生したら、煙を吸い込まないように口と鼻をハンカチ等で覆い、できる限り低い姿勢を取り、急いで避難しましょう。



閉じ込められたら

近くにある配管等をたたき、自分の居場所を知らせます。粉じん等を吸い込むことがあるので、大声を上げるのは最後の手段と考えましょう。



ゲリラ攻撃からの避難

被害は比較的狭い範囲に限定されるのが一般的ですが、被害が拡大するおそれもあります。一旦屋内に避難してから、行政機関の指示に従いましょう。



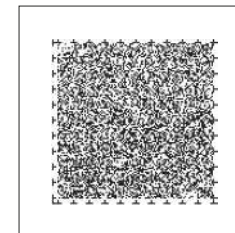
化学剤や生物剤攻撃からの避難

口と鼻をハンカチで覆いながら、その場からすぐに離れ、密閉性の高い屋内や風上など、汚染のおそれのない安全な場所へ避難しましょう。



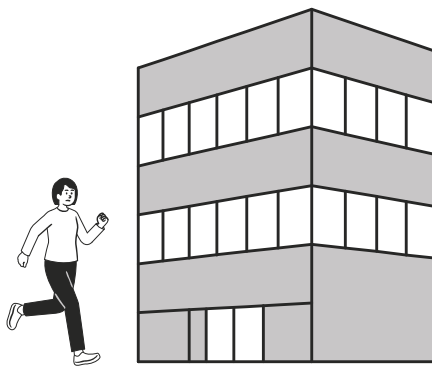
核爆発や放射能汚染からの避難

遮蔽物の陰に身を隠し、地下施設や頑丈な建物の中へ避難しましょう。また、ダーティボムと呼ばれる爆弾は、着弾後に放射能汚染を引き起こすので、行政機関の指示等に従い医師の診断を受けましょう。



ミサイル攻撃からの避難

日本周辺には、強大な軍事力を有する国が集中しており、軍事力のさらなる強化や軍事活動の活発化の傾向が顕著となっています。特に北朝鮮は令和3(2021)年9月以降、弾道ミサイルを立て続けに発射、令和4(2022)年に入ってからのはかつてない高い頻度でミサイル発射をくり返しています。北朝鮮のこうした軍事動向は、日本の安全に対する重大かつ差し迫った脅威となっています。

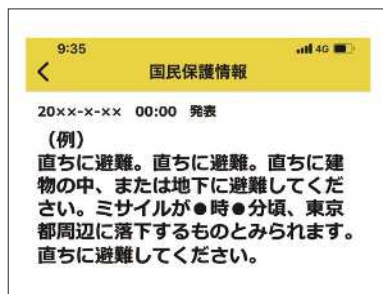


Jアラートによる警戒情報の発令

弾道ミサイルが日本に落下する可能性がある場合、情報を瞬時に伝える全国瞬時警報システム(Jアラート)が発令されます。防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージが流れるほか、携帯電話の緊急速報メール等を通じて、緊急情報が発信されます。「東京都防災アプリ」でもJアラートが発令されるとすぐに通知が届きます。



(東京都防災アプリ「災害情報画面」)



Jアラートが聞こえたら



逃げる

屋外にいる場合

近くの建物か地下(できれば頑丈な建物)に避難しましょう。



離れる

室内にいる場合

爆風で割れた窓ガラスで、ケガをすることを防ぐため、窓から離れるか、窓のない部屋に移動しましょう。



隠れる

建物がない場合

物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守りましょう。

※東京都では、頑丈な建築物や地下施設などを、ミサイル攻撃等の爆風などからの直接の被害を軽減するための一時的な避難施設である「緊急一時避難施設」として指定を進めています。

まずは**できるだけ近くの建物や地下へ退避することが大切**です。その際、近くにある場合には、より丈夫な建築物や地下施設などへ避難しましょう。



国民保護
ポータルサイト
避難施設

弾道ミサイルが落下してしまった場合

ミサイルには有毒物質等が含まれている可能性があります。万一に備え、屋外にいる場合は口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難します。屋内にいる場合は、換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉しましょう。

